▪2013年11月のマンスリーNEWS 第112号

■コラム

■11月のアークル

皆様いかがお過ごしでしょうか？10月の連ちゃん台風が去ってやっ と冬が来た感じがします。それにしても近年の台風のパワーは強くな っている感じするのは私だけでしょうか。夏場の暑さが暑いほど、秋の台風が巨大化、強力化していくのでしょうか。

さて10/19飲料業界関連では注目のニュースがありました。そうです！

清涼飲料は消費税を転嫁して値上げをするというカルテルを公取に申請するということを業界内で申し合わせたというのです。

私達、自販機オペレーターにとってはウエルカムの内容と捉えられますが、よく発言内容を見てみると3%アップ分の転嫁を一部の商品でまかなうというような内容なのです。つまり全ての商品を値上げするのではなく、一部の商品を値上げすることによって、トータルで3%分を上げるということなのです。

例えば、缶コーヒーは120円で据え置きするけど、ジュース類は130円に値上げする。ちなみに現在の120円商品の消費税を除いた価格は114円になります。つまり120円の商品は8%に消費税が上がると123円で売らなければなりません。仮にジュース類を130円で売った場合、消費税分よりも値上げしたことになってしまいます。そこで据え置き商品と値上げ商品のバランスを見ながら3%分をとっていくということのようです。

しかし重要ポイントはどの商品を値上げして、どの商品を据え置くかということが決まっていないという点です。たぶんこれは飲料メーカーによって様々だと思われます。またコーヒーなどは、従来の190mlのショート缶から280mlのボトル缶を 主流にしていくことなどが容易に予想されます。

なぜ飲料メーカーがこのようなカルテルを申請したのでしょうか？コンビニや駅売店などの売り場では、シンプルに8%の消費税を転嫁して販売すれば何の問題もありません。もう皆さんおわかりですね。そうです、自販機なのです。やはり飲料メ ーカーとしては3割以上のシェアのある自販機を無視することは出来ないのです。自販機は円単位の販売は現状無理なので、このようにするしかないのです。自販機もSUICAのようなカードリーダーをどんどん普及すればいいじゃないという意見もありますが、自販機に取り付けるカードリーダーの価格が高いのでまだまだ現実的ではありません。
これを機に自販機はまばらな商品価格になっていくでしょう。現在も自販機は定価販売が少なくなっている上に、価格帯が 違う商品がかなり入ってきているので、消費者はまばらな価格設定は受け入れられると予想されます。今後は特保などの機能性飲料など高付加価値商材や廉価商品などバラエティーに富んだ自販機を作っていく必要があると感じています。

さて10月のアークルを振り返ります。

10月期はとても厳しい月となってしまいました。かろうじて海老名（営）が昨年売上をクリアしましたが、小田原（営）の落ち込みをカバーするまでいかず、今期初めての売上ダウ ンとなってしまいました。要因は切り替えのタイミングにつきると思います。当社では10月はホットへの切り替え集中月として、切り替えをメインに活動しました。従来であれば、気温が下がりホット商材が売れ始める月なのに、今年は全然寒くなりませんでした。それにもまして毎週のように台風の影響を受け、売り上げが落ち込んでしまったのです。

今回の教訓は切り替えのタイミングの重要さです。しかしこればかりはどうにもなりません。運が悪いとしか言いようがないのが本音です。しかし切り替えを予定通り出来たのは収穫だと思っています。気温が思うように下がらなかったのは、私達の力ではどうしょうもないことで、それよりも予定通りの切り替えができたかどうかが問題なのです。

10月でホットへの切り替えはとりあえず終了しますが、その後は冬場に向けておしるこやコーンスープなどの真冬商材の 追加やコールド商品の見直しなどが始まります。特にこの冬は当社ではコールド商品にこだわっていきたいと考えています。
冬場はコールド商品の売れ行きが極端に鈍るだめに、コールド商品へのこだわりがなくなる傾向にあります。しかし冬場でもコールド商品のニーズは確実にあります。暖かい車中やオフィス、工場など人のいる場所は寒い場所だけではないのです。1本でも

多くお客様のニーズに答えられる自販機を作るためには、冬場でもコールド商品にこだわる必要があるのです。

自販機をとりまく環境は日に日に厳しくなってきています。最近ではサントリーの台頭でコカコーラの対抗心に火をつけ、 新たに赤青抗争が勃発しています。ポッカとサッポロも統合して力をつけてきています。もちろんキリンやアサヒのビール連合も虎視眈々と市場確保を狙っています。また伊藤園も直販メーカーの強みを生かして営業展開をしてきています。飲料業界においては、競争はまだまだ終らない様相で、当面は続くと思われます。
私達飲料オペレーターも、その競争にもまれている当事者なのですが、基本的な自販機のオペレーションを磨くということを忘れてはいけないと思っています。最近は市場競争激化で、金銭で営業をかけてくる傾向がありますが、自販機は設置してからが勝負です。しっかり自販機のオペレーションをしていかなければ、自販機の置く意味がないのです。

それにしても飲料メーカーは最近自販機設置増台数が厳しくなってきているようです。それは長い間の景気低迷と少子高齢化で新たに自販機を設置する場所が昔よりも減ってきたということで、今はどちらかというと既存の自販機交換営業が主流となってきています。自販機を交換するのだから、営業はより困難を極めます。しかしこれをしていかなければ、飲料メ ーカーは後がないことをわかっています。

今後のテーマは引き上げの撲滅、新規ロケ確保の推進ということは間違いなさそうです。

今年も残りわずか2ヶ月となってしまいました。今年はアークルはあるテーマを持って1年間行動してきました。その結果自販機増台数が思うように進みませんでした。来年からはまた自販機を増やしていかなければならないと思っています。

今後も荒波にもまれながらのアークルの航海は続きます。

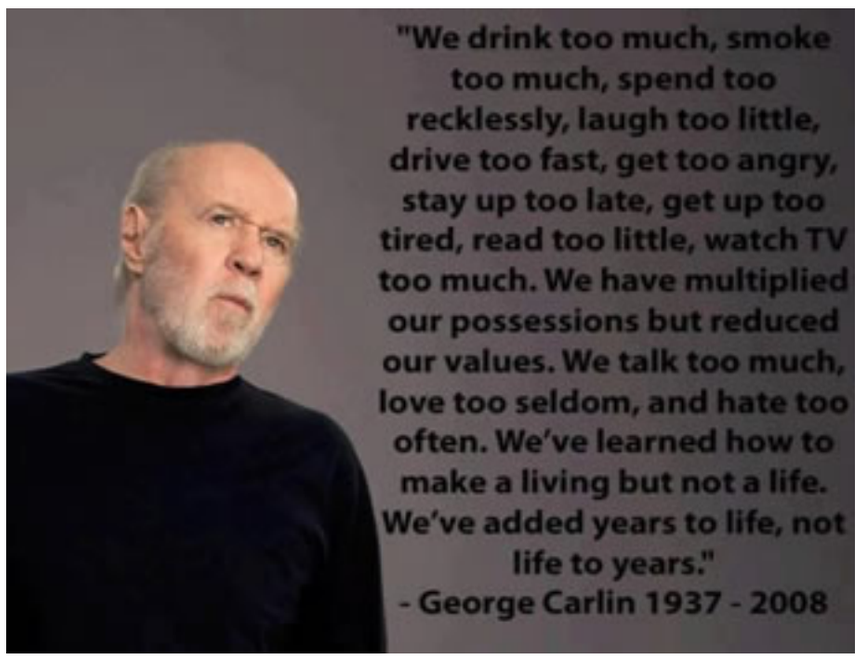
■コラム

■先月の売れ筋商品

ＤＹＤＯ売れ筋ベスト5		ＳＵＮＴＯＲＹ売れ筋ベスト5		ＪＴ売れ筋ベスト5	
1位	新ダイドーブレンドコーヒー	1位	ボスレインボーマウンテン	1位	爽快ビタミ５００缶
2位	新ブレンド微糖	2位	ボス贅沢微糖	2位	ﾙｰﾂｲﾝﾊﾟｸﾄ微糖
3位	Ｎデミタスコーヒー	3位	南アルプス天然水500P	3位	マルチミネラルウォーター500P
4位	葉の茶４５０Ｐ	4位	ボス無糖ブラック	4位	桃の天然水ライト５００Ｐ
5位	細缶Mコーヒー	5位	ボスカフェオレ	5位	レモン水５００Ｐ

■コラム

■この時代に生きる私たちの矛盾



皆さんはジョージカーリンという人を知っていますか？私は全然知りませんでした。アメリカの毒舌で有名なコメディアンだそうで、機関車トーマスのナレーターで有名だそうです。
そのジョージ・カーリンが 彼の最愛の妻が亡くなったときに、ボブ・ムー アヘッド牧師の説教を引用し、友人に送ったメールの一部が、フェイスブックで目に留まりました。ハッとさせられる言葉で、とても印象に残ったので紹介したいと思います。

歴史における私たちの矛盾点、それは次のようなものだ。

ビルは高くなる一方だけれど、人の気は短くなる一方。高速道路は広くなったけれど、人の視野は狭くなった。お金はじゃんじゃん使っているが、得るものは少ない。物は買いまくっているものの、楽しみは少なくなるばかり。

家は大きくなったが家族のかたちは小さくなり、ずっと便利になったのにも関わらず、私たちには時間が無い。学のある者は増えたが常識がある者はめっきり減り、その道のプロフェッショナルと呼ばれるやつが増える一方で問題は一向になくならない。薬が増えたのに、病気がなくなる気配はない。
飲み過ぎ、吸い過ぎ、浪費に走る。それなのにほとんど笑うことはないし、スピードを出し過ぎるし、すぐに怒る。夜更かしをし過ぎるあまり、朝起きた時にはすでに疲れている。読書しなくなった分テレビばかり、そして祈ることもめっきり少なくなった。
たくさん物を持つ、その一方で物の価値が目減りする。私たちはおしゃべりが過ぎる。愛するということを滅多にしなくなって、いつのまにか憎むことばかりが増えていった。

私たちは生計の立て方は学んだが、生きることを学んでいないのだ。寿命が増えただけで、真の意味で生きてなどいない。月まで行けるようになったというのに、隣人とはトラブルばかり。外側の世界を征服したところで、私たちの内なる世界はどうなんだ？大規模なことは成し遂げてきたけれど、本当に善いことは未だ達成されていないだろう？

空気を洗浄したぶん魂を汚し、原子核をも支配したが差別は一向に消えない。たくさん書いているのに多くを学ばず、計画は増えたのに成し遂げられていない。急ぐことばかりを覚え、待つことを忘れた。多くの情報を抱えるべくコンピューターを作り、どんどんコピーを生みだしたが、、コミュニケーションは減る一方だ。
ファーストフードのおかげで消化は遅く、体ばかりでかくて人格は極めて小さい。利益利益で人間関係は希薄。共働きで収入

が増えた分離婚も増え、見た目ばかり良い家が増えたけれど、その中は崩壊している。

**　手軽な旅行に使い捨ておむつ、モラルはなくなり、ワンナイトラブが溢れる。太り過ぎの体を持て余し、死に急ぐため薬を多用する。**
ショールームに物が溢れかえるなか、倉庫は空っぽのまま。テクノロジーはあなたの元へすぐにメッセージを届けてくれるけれど、読むも読まないも、また消すのだって、今やあなたの指先ひとつですべてが決まる。今はそういう時代なんだよ。

**　忘れないで、愛する人と多くの時を過ごすことを。だってその時は、永遠には続かないのだから。**

**　忘れないで、あなたに畏敬の念を抱く人たちに優しい言葉をかけることを。だって彼らはすぐに大きくなって、いずれあなたの元を去ってゆくのだから。**

**　忘れないで、側にいてくれる人に温かなハグをすることを。だってこれがあなたが持っている1番の宝であり、しかもこれをするのに1円もかからないのだから。**

**　忘れないで、愛する人に「愛している」と伝えることを。そのときどうか、心をこめて。心からのキスと抱擁は、相手の心をも必ず深く癒してくれるから。**

**　忘れないで、相手の手を握り、共にいる時間を慈しむことを。だってその人はいずれ、あなたの前からいなくなってしまうかもしれない。愛するため、話し合うため、そして思いを共有し合うための時間を作って。そしてどうか、これだけは覚えておいて。人生は呼吸の数で決まるのではなく、どれだけハッとする瞬間があったかで決まる、ということを。**

　確かに世の中は進化してより便利になり、人間の欲望をより満たしてくれるようになってきています。しかし人間の本質が変わったわけではないので、いくら便利で豊かな社会になったとしても、幸せを感じ取れるかは別の話しです。普段、私達は忙しい生活の中で、自分の周りの人々を幸せにしようという意識が希薄になっているのは事実です。一度立ち止まって、自分を振り返る必要があるな～なんて思ってしまいました。

■コラム

■ＡＭＤＡ（アムダ）

救える命があればどこへでも　　代表　菅波　茂

　皆さんAMDA（アムダ）という団体をご存知でしょうか1984年に設立された団体で、相互扶助の精神に基づき、災害や紛争発生時、医療・保健衛生分野を中心に緊急人道支援活動を展開しています。支部は世界30カ国にあり、多国籍医師団が結成され世界中で活躍しています。また2008年には国連のメンバーシップを取得して、今では世界的に有名な組織となっています。

　今回、そんなAMDAの代表、菅波氏の話しを聞く機会に恵まれました。 話しの内容は、AMDAの「人道援助三原則」についてです。

　21世紀は、「多様性の共存」、世界的レベルでものの見方や考え方の異なった人がいかに共存していけるかということが時代のテーマとして重要になってきます。そのキーワードは「尊敬と信頼」 だそうです。私達の平和への定義は「今日の家族の生活と明日の家族の希望」が実現できるという事です。この平和を妨げる要因として 戦争、災害、そして貧困があります。これらの要因を改善および解決する積極的なプロジェクトを共に実施する中で「尊敬と信頼」を共有することが必要になります。私達はこのようなプロジェクトを実施するために下記の人道援助3原則を共有しています。

1.誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある
2.この気持ちの前には、国境、民族、宗教、文化等の壁はない
3.援助を受ける側にもプライドがある

　という事で今回の講演のテーマは上記に語られている「尊敬と信頼」です。
　日本人が国際社会からいかに「尊敬や信頼」を得られるかというのが中心に話しが進められていきます。

　まず冒頭お金を話しが出ます。今回の主催は国際奉仕団体が主催しているために、国際支援でのお金の出し方について語られました。国際社会において、支援のお金出し方は非常に難しく、出し方によってはバカ にされたり尊敬されたりするので注意が必要だとい

うことです。

支援金には種類があって尊敬される順に、ポケットマネー・募金・税金となります。つまり日本のODAなどは相手も「どーせ自分の金じゃないだろ」ということがわかっていて、お金の運び屋というくらいにしか思わないそうです。一番尊敬されるのはやはり個人のお金で、しかしその個人のお金もしっかり「何のために、どういうお金を使っているのか」ということを相手にキッチと伝えなければいけません。

さて人間の尊厳とは何でしょうか？AMDAがアフガン難民支援をしていた時の事です。イスラム社会の女性の地位が低いのは周知の事実です。

そんなイスラム社会の難民救助は世界からも男性のチームがほとんどの中、AMDAは女医チームを派遣したのです。このことが逆に評価されたのです。イスラム社会で女性スタッフが活躍するということは、イスラム社会の女性達に夢を与えるということなのです。

国際社会において「人の見方」を考えたことはあるでしょうか？人を見方は欧米とアジアでは異なります。欧米ではその人を「友達か召使」と見、アジアでは「家族か家族ではないか」と見るそうです。

アフリカのザンビアでのプロジェクトでの日本人に対する現地の人の見方はこうです。「日本人は信用はおけるけど、信頼は出来ない」イギリス人への見方はその逆で「信用はおけないけど、信頼はできる」。さてどういうことなのでしょうか？？？信用と信頼の違い。簡単に説明するならば、信用は「お金の貸し借り」、信頼は「精神的な支え」といったらわかりやすいかもしれません。

イギリス人はこの地に聖書を持ち込み、土地を奪った。信用のおけない奴らだけど、俺達が困ったときは、そばにいてくれ助けてくれるから信頼はおけるということです。

これは何を意味するでしょうか？

これは「血縁共同体社会」を意味します。血縁共同体社会とは「裏切らない」ということです。血で繋がるのだから運命を共にするという意味なのです。例えば、血を共にする＝結婚、血を共に流す＝軍事的同盟、血を超える＝存亡の危機 ということなのです。つまりさきほどのアジアの人の見方がこれに共通するものです。「家族か家族ではないか」。この考え方に近いのが日本では沖縄です。またこれが典型的なアジアの国は北朝鮮です。

世界の親日国をみても明らかです。独立に際して日本兵が血を流した国はミャンマー、ベトナム、インドネシアで、どれも親日の国です。また日本が血を流して（戦争して）メリットのあった国は、インド、スリランカ、バングラディシュ、 パキスタン、トルコ、フィンランドなどです。特にトルコ、フィンランドは自分たちが苦しめられてきたロシアに日本が戦争で勝ったということでとても親日なのです。

「歴史を学ぶ」というのは何を学ぶことだと思いますか？それは「裏切られたか、裏切られなかったか」ということを 学ぶのです。

この血縁共同体社会は「困ったとき、存亡の危機のとき来てくれるのか？」ということなのです。相手から「わざわざ 〜」と言う言葉を聞くことが重要なのです。例えば、血縁共同体で大切なのは冠婚葬祭の中でも葬祭です。災害で死者が 出れば葬式となります。駆け付けるか否かが重要になります。先進国では死者の数により緊急人道支援の是非を決定するので、緊急人道支援をしなかった時の説明が困難となり信頼を失うのです。せっかく開いた血縁共同体の殻が再び閉まることとなります。単純に金の切れ目が縁の切れ目となるのです。紛争や災害による緊急人道支援は葬式外交なのです。葬式外交は繰り返すことにより双方の信頼形成となります。実は外交の目的は信頼形成なのです。祭は宗教の領域ですから、 国際社会は宗教なしには語れません。AMDAは日本からの宗教者と被災地の宗教者との合同慰霊をできる限り実施しています。宗教者はボランティアで参加してくれています。緊急人道支援と合同慰霊との組み合わせが葬祭の答えとなるのです。「AMDA多国籍医師団」は「AMDA多宗教医師団」でもあるということなのです。

「AMDA多国籍医師団」が成功した別の理由もあります。

AMDAの人道援助の三原則の3つ目の「援助を受ける側にもプライドがある」というのがあります。このプライド とは自分も社会の役に立ちたい、社会から認められたい気持ちです。世界のNGOで「援助を受ける側のプライド」を掲げているのはAMDAだけです。AMDAネパール支部長創設者のポカレル医師はこう言いました。「**私たちだって国際社会の役に立ちたい気持ちはある。正規の現代医学の教育も受けている。しかし、欧米諸国の医療チームは、ネパール国内の医療 活動においても、私たちに重要なポジションをくれない**」と。

東日本大震災のときも、私達は東北の人達を被災者としてひとくくりに見ていたということはないでしょうか？元気でバリバリ救援活動が手伝える人まで、被災者という目で見てはいなかったでしょうか？

人間はいつも「ありがとう、ありがとう」と言っているとおかしくなるそうです。人は自分が必要とされる存在感を感じることがとても大切なのです。

何故にあなたは私を助けるのか。人間関係には3種類あります。フレンドシップ、スポンサーシップそしてパートナーシ ップです。一番危険な人間関係は一方的に支援するスポンサーシップです。何故なら援助を受ける側にもプライドがあるからです。「開かれた相互扶助」とはパートナーシップです。パートナーシップとは困難を共にする人間関係で、「今、あ なたが困っているから助けに来ました。明日、私が困ったら助けに来てください」これが重要なのです。こう考えると冒頭のお金の話しの意味がよくわかりますよね。

つまり上から目線の援助ではダメで、お互い様という公平な立場の援助でなければいうことです。

さて日本人は海外からどう見られているでしょう？英国のBBCの調査によると日本は世界でも嫌われていない国の一つです。これは、菅波氏が提唱する「市民参加型人道支援外交」の行う上で大変重要なポイントとなります。例えば2010年1月にハイチ大地震のときのことです。ハイチは地震の混乱の中、脱獄囚が武器を持って暴れるようなひどい治安状態にありました。私達はハイチに拠点を構えることは出来なくて、近いドミニカ共和国に拠点を置いて緊急人道支援活動をしたのです。しかしハイチとドミニカは昔から仇敵の関係で非常に難しい局面だったのです。しかし両国とも日本に対 してはとても親日だったのです。

市民参加型人道支援外交は「AMDA多国籍医師団」の成果を更に昇華させるコンセプトです。日本は何故に世界で最も嫌われていない国のひとつなのか。理由を次のように考えています。

1）66年間、戦争の名のもとに人殺しをしていない。

２）ODAで25兆円を利他的に世界にばらまいた。

３）特定のイデオロギーを国益のために振り回していない。

海外の関係者によく言われるのが「日本人はなぜ聖書を読んでいないのにそれができているのか」「日本人はなぜコーランを読んでいないのにそれが出来ているのか」ということです。日本人の当たり前の道徳観が海外では当たり前ではないのです。

最後、講演内容と直接関係はないのですが、とても学ぶ点がありました。講演が終了し、質疑応答の時です。司会者から何か質問はないでしょうか？このとき私達は積極的に質問できるでしょうか？こういうときは積極的に質問もすべきであると菅波氏は言います。また、講演会の席で司会者や講演者から指され意見を求められた場合、絶対にモゴモゴしてはいけないと。また「わかりません」もご法度です。

私達は今後国際社会を生き抜いていく上で教養が必要で、またしっかりと自分の意見やアイデンティティーをもつこと。そうしないとバカにされます。海外を相手に活動ををされている人ならでは意見だと痛感します。

例えば、アジアの人々は**「日本はなぜ寿命が世界一なのか？」「戦後の奇跡の復興はどう成し遂げられたのか？」「なぜ一度も欧米の植民地にならなかったのか？」**などを知りたいと思っています。あなたはこの質問に対して日本人として しっかり答えられますか？

また信頼される人であるには基本的に正直であるといのが、大前提だということも付け加えていました。

今後将来、国内だけに目を向けていてはダメという時代だからこと身にしみる最後の教訓でした。

■コラム

■激ウマＢ級グルメ　第63弾

横浜3連発！　魚・そば・肉

このところ、やたら横浜の野毛周辺での食事の機会がとても多いのですが、あらためてディープな野毛に感動しはまっています。

野毛はJR桜木町駅をはさみ、みなとみらいの反対側にある街です。最近は雑誌やテ レビでよく取り上げられ、最近では女性が歩いているのを良く見かけます。

野毛が繁華街として発達したのは戦後まもなく。物のない時代、ヤミ市などが軒を連ね、遠方から訪れる買い物客も多く、大いに潤いました。小さな店舗が密集する街の原型は、このころできあがったと言います。

とても面白いのが、JRの線路をはさんでみなとみらい側は最先端をいく街で、それと対照的なレトロの野毛が相対して存在しているということです。こんな間近にこれほど対照的な街が存在しているのは珍しいのではないでしょうか。

なぜ、最近このあたりに私が出没しているかというと、私の友人のKさんが「○○ さん、野毛は美味しくて面白いから是非来て一緒に飲みませんか？」というお誘いが 何回か重なったからなのです。Kさんと言えばこのＢ級グルメで紹介した店、何軒か紹介してくれているほどグルメな人なのです。この人が連れて行ってくれるなら間違いないと確信しています。

ということで、今回は野毛の店を2軒、そして平沼橋を1軒紹介したいと思います。
今回はスペシャルで一気に3店の紹介です。

●まるう商店

まず、Kさんに連れて行かれたのがまるう商店。
三崎の魚問屋が経営しているらしく、追浜の本店、横浜店、そしてこの野毛は今年の6月にオープンしたそうです。

今回訪問したのはやや早めの18時で、まだお客さんはまばら状態で余裕で座れました。しかしKさんによると、少し時間が遅くなるとかなり混みあうようで、早く来てよかったということなのです。

店内に入るとすぐに冷蔵ケースがあり、魚が並んでいます。魚問屋が経 営するお店という先入観と、このショーケースが否が応でも食欲を増させます。

この店のお奨めは、三浦半島地魚・どっさり盛り(1980円)、てんぷら、三浦半島の新鮮な野菜です。

どれもボリューム満点でリーズナブルな価格。これなら繁盛するのがわかります。

我々が店を出るころには、お客さんはいっぱいになっていました。

●東屋（あずまや）

このお店はふぐ料理のお店として有名なのですが、実はすき焼きとうなぎがうまいお店でもあるのです。

　すき焼きとうなぎ！！やばいです。私の好きな食べ物の1番がうなぎ、2番がすき焼きなので、大好物がセットで食べれるなんて幸せを感じてしまいます。

　創業は明治44年というから、なんと100年以上の歴史あるお店なのです。

　この日は千葉の用事があった帰りの訪問だったので、店の到着を電話で伝えうな重のご飯とうなぎをグッドタイミングで出してもらえるように段取りをしました。通常であれば、うなぎは注文を受けてさばくので時間がかかります。まずはすき焼き！！なんと牛肉は米沢牛です。店の大将と奥様はとても素材にこだわっておられ、牛肉もだた見た目でサシが入って美味そうではダメだそうです。ちゃんと食べてみて、牛肉本来の美味さがあるかどうかの確認を上での仕入れをすると言っていました。感想？？美味かったに決まってます。

　そしてうなぎです。実はすき焼きを食べ終わった時点でかなり満腹だったのですが、ここのなぎの美味さは小田原の友栄にも匹敵すると言われていたので、食う気満々は衰えていません。

　ご飯は炊きたて、うなぎはさばきたて、さてお味はどうだったでしょうか？

　さすがに友栄と比べるには無理がありますが、専門店なみの実力はあると思います。

　次はふぐに挑戦したいと思います。

●角へい

次は野毛をちょっと離れて、平沼橋です。

このお店は知っている人も多いと思います。そばの老舗で、昭和25年創業だそうです。私もいろいろな人からこのお店のことは聞いていたのですが、なかなか行く機会に恵まれず今回初めての訪問となりました。
有名なのは「つけ天」。つめたいそばに熱々のつゆ、その中にボリューム満点の揚げたてのエビ天が入っています。ごま油の良い香りと濃い目のつゆが相まって食欲がそそられます。

イメージとしては温かいてんぷらそばのそば抜きといった感じでしょうか。ただしつけそばなので、少しつゆが濃い目になります。そばは細めでコシがあります。二八ぐらいでしょうか。個人的には好きなそばです。テーブルには七味以外に柚子も置かれています。

最初に柚子を入れずに一口食べ、その後柚子を入れて食べてみると、柚子を入れたほうが濃い目のつゆが少しライトな感じになります。また、食べ進めていくとつゆの中にてんぷらのごま油の香りが入り込み、余計に味わい深くなっていきます。

さてｋさんはこのお店の一番のお奨めは「つけ天」ではないと言います。一番のお奨めはなんと「カツ丼」だと言うのです。今回私は初めての訪問だったので、カツ丼を食べるとつけ天まで食べれないということで、2人で1つ「カツ煮」 を注文することとしました。「カツ煮をたべればカツ丼の美味さがわかるでしょ」こう言うＫさんはさっさとカツ煮を注文したのです。
k氏推奨のカツ煮はどうっだのでしょうか？このカツは不思議で煮てあるに衣がサクサクしています。また、少し時間 がたってもそのサクサク感が持続しています。またかなり良い豚肉を使っていると思われ、特に脂身までとても美味しい 一品でした。もちろん良い素材を使っているのに増して、やはりここのそばつゆの甘さがカツを引き立てていると思われます。

個人的な感想なのですが、この蕎麦屋さん昔懐かしいと思ったのです。たぶん、つゆが特徴だと思います。最近のそばつゆはそれほど甘さが引き立っていないと感じます。しかしこのお店のつゆはみりんが多めなのでしょうか？よくわかりませんが、とにかく子供のころ食べた蕎麦屋さんの味を思い出すのです。

さていかかだったでしょうか。今月号では横浜野毛・平沼橋のお店3店を紹介しました。

私はどちらかというと、新しいきれいな街よりも古いごみごみした、歴史を感じるような街のほうが落ち着きます。例えば東京の六本木にいて、大江戸線を使って一気に下町に行くとその感覚が如実にわかります。
今回の横浜グルメも同様で、みなとみらいや関内よりはどうしても、野毛や伊勢崎町のほうが落ち着いてしまうのは、なぜでしょうか？

皆さんはいかがですか？

■コラム
■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!
ただいまブログは8名が更新中です。

・小田原営業所所長日記

・チーフの日記

・販促課小田原日記

・販促課マネージャーの日記

・海老名の所長ブログ

・開発道

・海老名営業所ルート営業日記

・新米営業マンの悪戦苦闘日記

社員旅行で自販機工場見学、来月号でお伝えします。

今月は以上です。又、来月号も宜しくお願いします。

■2013年度のマンスリーＮＥＷＳ		
	2013.10	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2013.09	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2013.08	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2013.07	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2013.06	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2013.05	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2013.04	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2013.03	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2013.02	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ
	2013.01	アークル　　マンスリーＮＥＷＳ

■マンスリーＮＥＷＳアーカイブ		
	最新	マンスリーＮＥＷＳトップページ
	2012年度	２０１２年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	2011年度	２０１１年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	2010年度	２０１０年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	2009年度	２００９年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	2008年度	２００８年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	2007年度	２００７年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	2006年度	２００６年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	2005年度	２００５年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	2004年度	２００４年のマンスリーＮＥＷＳアーカイブ
	番外編	マンスリーレポート番外編

© Copyright 2008 ARUCRU co.,ltd All rights reserved.